広島県の地震

２０２５（令和７）年５月

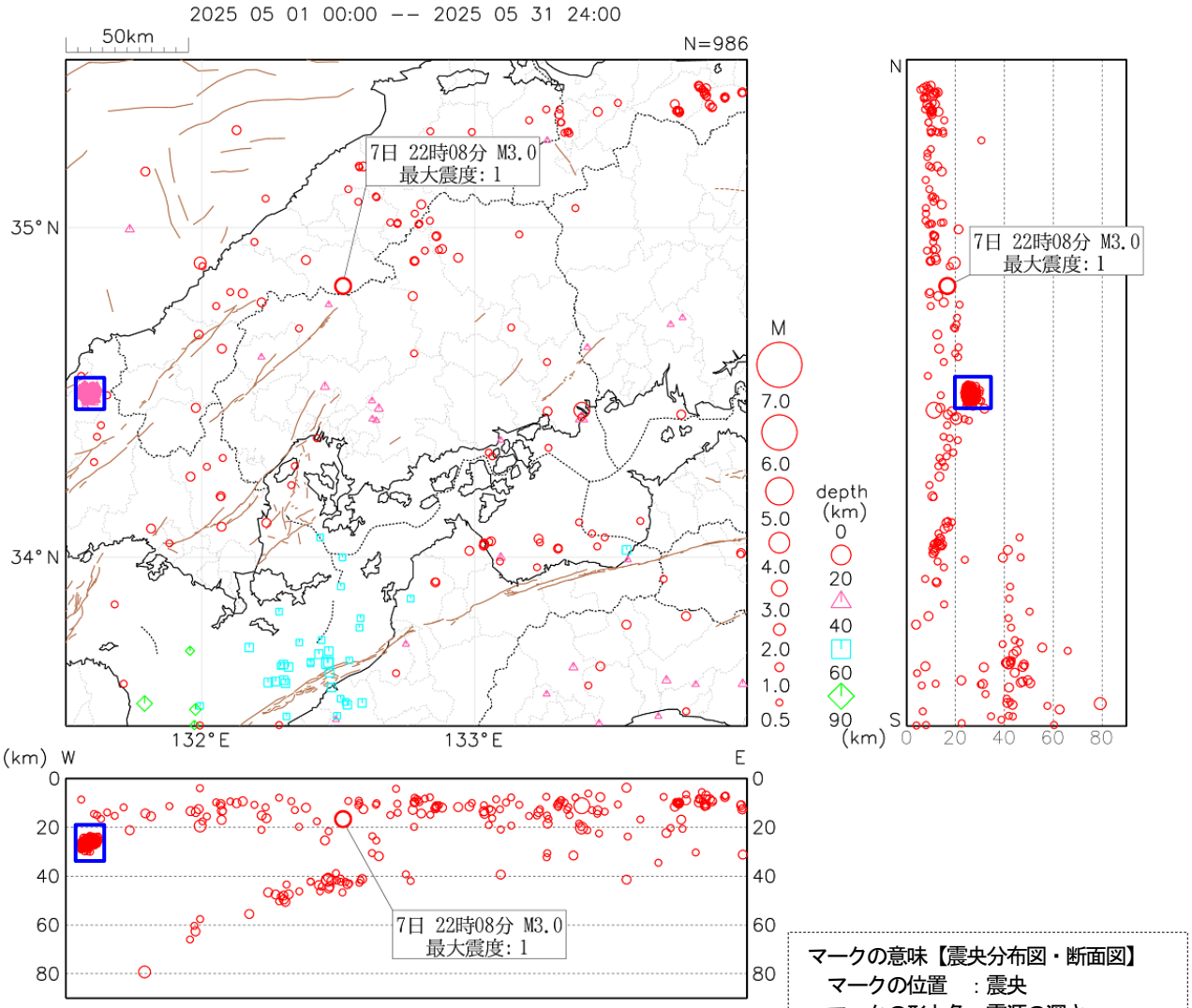
目　次

広島県及びその周辺の地震活動・・・・・・・・・・・・・・・・１
震央分布図・断面図と地震概況
広島県における震度１以上の地震・・・・・・・・・・・・・・２
震度一覧表と震度分布図
地震メモ　第 246 回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
津波を知る

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】　　2025 年 5 月 1 日～5 月 31 日



左上：震央分布図　右上：南北断面図　左下：東西断面図

※　震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。

※　図中の茶線は地震調査研究推進本部 による活断層を表しています。

※　図の右上の”N”は図の範囲内における地震の回数です。

マークの意味【震央分布図・断面図】
マークの位置　：震央
マークの形と色：震源の深さ
マークの大きさ：M の大きさ

※　Mは地震の規模を示すマグニチュードの略です。

凡例（depth）【震央分布図】
○ は深さ 0～20 km未満
△ は深さ 20～40 km未満
□ は深さ 40～60 km未満
◇ は深さ 60～90 km未満

【地震概況】

この期間、広島県内で震度１以上を観測した地震は２回でした（先月は１回）。

７日 22 時 08 分 島根県西部の地震（深さ 17km、M3.0）により、島根県川本町・邑南町、広島県安芸高田市で震度１を観測しました。

12 日 06 時 03 分 土佐湾の地震（深さ 30km、M3.4、上図の範囲外）により、広島県尾道市、徳島県美馬市、愛媛県西条市、高知県高知市で震度１を観測しました。

なお、山口県北部の深さ 25km から 30km 程度（震央分布図・断面図青枠内）では、2025 年２月から微小な地震活動が見られるようになり、５月末現在もまとまった活動が継続しています。地震活動の詳細については、気象庁 HP「令和７年５月の地震活動及び火山活動について」及び地震調査研究推進本部 HP「2025 年５月の地震活動の評価」を参照願います。

・気象庁　https://www.jma.go.jp/jma/press/2506/09a/2505kinki-chu-shikoku.pdf

・地震調査研究推進本部 https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025_05.pdf

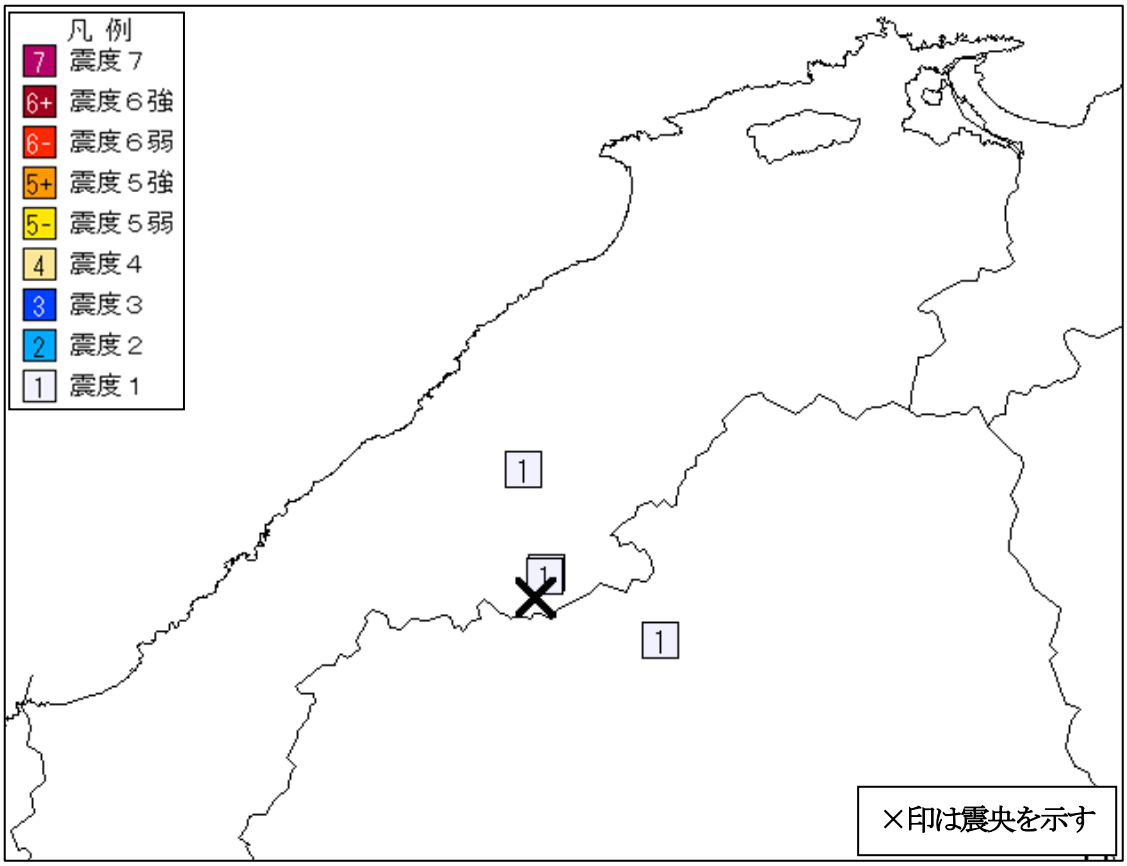
広島県における震度１以上の地震

【震度一覧表】

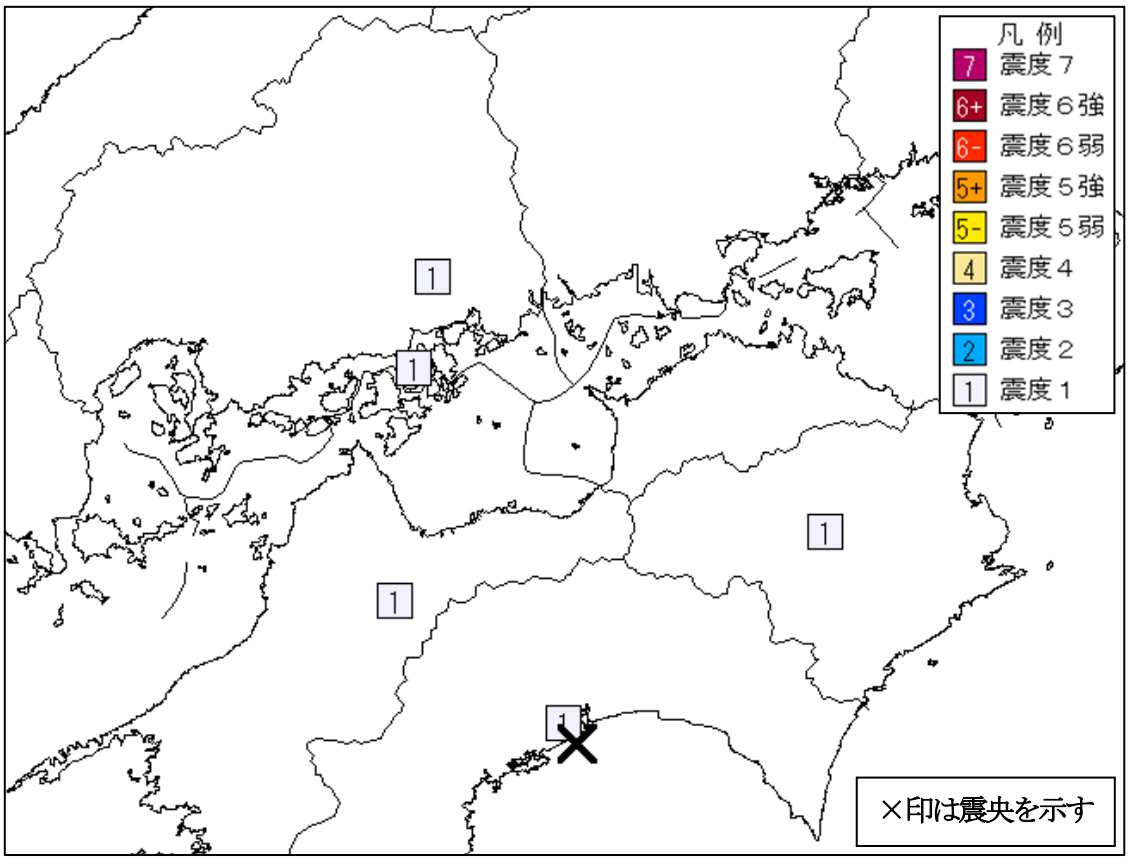
発震時刻（年月日時分）　震央地名 広島県内の各地の震度	緯度	経度	深さ	M ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2025年05月07日22時08分　島根県西部 ―――――― 地点震度 ―――――― 広島県　震度　1 ： 安芸高田市高宮町＊	34° 49.4’ N	132° 31.0’ E	17km	M3.0
2025年05月12日06時03分　土佐湾 ―――――― 地点震度 ―――――― 広島県　震度　1 ： 尾道市瀬戸田町＊, 尾道市御調町＊	33° 27.7’ N	133° 32.3’ E	30km	M3.4

注）震度の地名に＊印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

【震度分布図】



2025 年 5 月 7 日 22 時 08 分　島根県西部の地震の観測点震度分布図



2025 年 5 月 12 日 06 時 03 分　土佐湾の地震の観測点震度分布図

地震メモ　津波を知る　第 246 回

○津波のしくみ

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

※地震以外にも、火山噴火に伴う山体崩壊や海底地すべりなどで地形変動が生じることもあります。

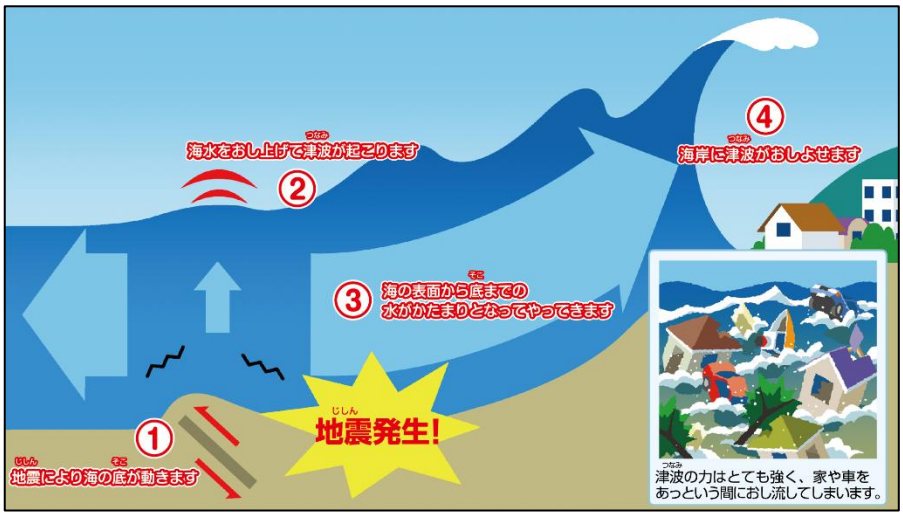


図１ 海域の地震により津波が起こるしくみ

○波浪と津波の違い

海域で吹いている風によって生じる波浪は海面付近の現象で、波長（波の山から山、または谷から谷の長さ）は数メートル～数百メートル程度です。一方津波は、海底から海面までの海水全体が短時間に変動し、それが周囲に波として広がって行く現象で、波長は数キロから数百キロメートルと非常に長いものです。このため津波は勢いが衰えずに連続して押し寄せ、沿岸での津波の高さ以上の標高まで駆け上がります。**津波は海底から海面までの海水全体が動くエネルギーの大きな波**であり、海面付近の海水が動く現象である「波浪」と大きくことなります。高さ 0.2～0.3m 程度の津波も人は速い流れに巻き込まれてしまうおそれがあり大変危険です。

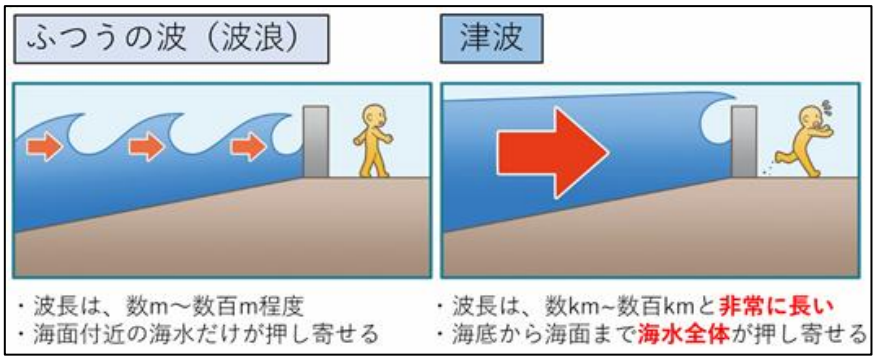


図２ ふつうの波（波浪）と津波の違い

○津波は引き波で始まるとは限らない

「津波の前には必ず潮が引く」と言われることがありますが、必ずしもそうではありません。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。**津波は引き波で始まるとは限りません。**

○津波の伝わる速さと高さ

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではなく、**津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難してください。**

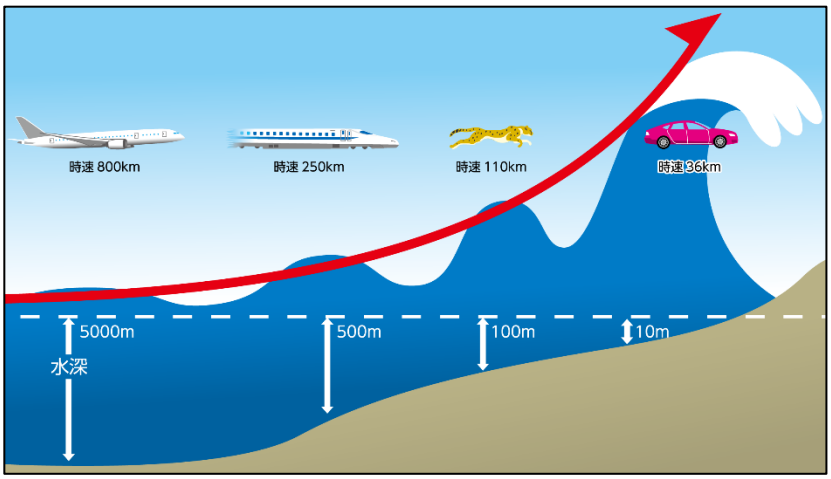


図３ 津波の速さと高さの模式図

○地形による津波の増幅

津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので更に高くなることもあります。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。このため、**最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。**

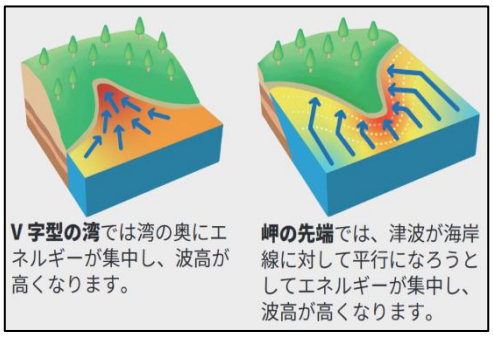


図４ 地形による津波の増幅の例

参考：気象庁ホームページ

・知識・解説＞津波発生と伝播のしくみ
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/tsunami/generation.html

・知識・解説＞よくお寄せいただくご質問＞津波について
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/faq/faq26.html

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先
〒730－0012
広島市中区上八丁堀 6－30 広島合同庁舎 4 号館 14 階
広島地方気象台 防災管理官室　　TEL：082－223－3965